

資生堂、化粧品原料であるパーム油の全量を 2013 年までに RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）認証油とすることを宣言

資生堂は、化粧品原料の調達から製造、物流、販売まで、全てのプロセスにおいて、生物多様性の保全（地球の恵みの保全）に配慮し、持続可能な資源の活用を目指しています。

その活動の一環として、国際的な非営利組織「RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil：持続可能なパーム油のための円卓会議）」に 2010 年から加盟していますが、この度 RSPO に対し、資生堂グループが化粧品原料として使用しているパーム油およびパーム核油の全量を 2013 年までに RSPO 認証油とすることを宣言しました。認証にあたっては、RSPO で定められている「ブック・アンド・クレーム方式※1」を採用します。

この宣言は RSPO の正会員団体に対し 2012 年 3 月の総会で決議されたもので、各団体が宣言した内容は RSPO のウェブサイト上で公開されています。

http://www.rspo.org/en/acop_2011-2012_reports

※ RSPO 認証農園で生産されたパーム油・パーム核油の生産量を認証クレジットとして売買取引する方式。グリーン電力と同じ仕組みで、証紙を購入することにより RSPO で認証された油を購入したことと同等とみなされる。

パーム油について

パーム油はアブラヤシの果肉から得られる油脂で、パーム核油は果実の核を圧搾して得られる油脂です。現在パーム油（パーム核油含む）は大豆油を抜き世界で最も多く生産され、食品・洗剤など日常生活に不可欠な製品の原料として世界中で活用されています。化粧品用としては、パーム油やパーム由来の脂肪酸とその加工原料が多く流通しています。

パーム油は植物油脂の中でもより多用途に利用でき、価格が比較的安価である上、アジア諸国での人口増加や生活水準の向上によって、近年その需要が急速に伸びています。その一方で、パーム油の原料となるアブラヤシの大規模な農園開発のために熱帯雨林が違法に伐採され、野生動物の絶滅危機や森林減少による地球温暖化への影響が問題視されています。

RSPO について

RSPO は、持続可能なパーム油産業の振興や運営を行うことを目的として、2004 年に WWF（世界自然保護基金）とパーム油に関わる企業・団体により設立された国際的非営利団体です。RSPO には、生産・加工業者、消費材メーカー、環境 NGO など様々な企業・団体が加盟しています（2012 年 10 月 23 日現在、正会員は 755 団体）。